木のある暮らし

大分県の森林を守る未来へのアクション

木を使うことは、森を守ること

森林は、木材やキノコといった林産物の供給や、地球温暖化の原因となるCO2の吸収、土砂災害の防止、水源の涵養、保健養育の場の提供など、私達にとって欠かせない役割を担っています。また、SDGｓの目標15「陸の豊かさも守ろう」だけでなく様々な目標にも関連しています。

大分県は、林業が盛んな県で林業産出額は全国で5位です。県内の森林面積の約5割を占める人工林では、木材として利用可能となっているにも関わらず、輸入材の増加や林業の採算性の低下などにより、放置される森林もみられるようになっています。また、CO2の吸収量が低下した高齢の木々が増えており、末口が直径30ｃｍ以上の「大径材」の活用が課題となっています。

世界的には令和3（2021）年、新型コロナウイルス感染症の影響等によりアメリカの住宅需要の高まりや海上輸送の混乱などが生じ、日本の木材輸入や木材生産に大きな影響を及ぼした、いわゆるウッドショックがありました。また近年のロシアによるウクライナ侵略に関連した木材流通への影響も心配されています。

森林を守るためには、植林→育成→伐採→利用といったサイクルを回すことが大切です。それは、海外の影響を受けにくい安定した日本の木材流通をつくることにも繋がります。そのためには私たちがもっと木を利用する必要があります。

取材協力（50音順）　合同会社ウッドアート楽、大分県立大分工業高等学校、大分県農林水産研究指導センター林業研究部、合同会社大分薪ストーブ、木屋かみの、九州大学農学研究院 清水邦義 准教授、月隈木履、藤居醸造合資会社、有限会社アトリエ間居、慧設計一級建築士事務所、佐伯広域森林組合、タマイM&S株式会社、日本ハウジング株式会社、一級建築士事務所Yama Design、株式会社幸建設、ミウラクワノパートナーシップ有限会社一級建築士事務所

発行／大分県農林水産部林産振興室　編集/認定NPO法人地域環境ネットワーク　2023（令和５）年３月

木を積極的に活用することは、暮らしを豊かにし、地域や経済の発展、大分県の森を守ることにも繋がります。
一方で、特に「建築物」に木を活用することを想像する時、このようなことが頭に浮かぶかもしれません。

火事や地震に弱いんじゃない？
階数は何階まで建てられるの？
柱のない広い空間はつくれるの？
傷みやすくて手入れが大変じゃない？

日本は近代まで、法隆寺をはじめとする大規模な木造建築の技術と文化をもつ先進国でした。ですが、第2次世界大戦での戦火や台風被害もあり、1959年日本建築学会が「木造禁止」を含む建築防災の決議をしたことがきっかけで、木造技術が停滞する時期がありました。

しかし、戦後の造林施策などにより多くの木が利用期を迎えたため、1987年に建築基準法が改正され、再び中大規模の木造建築が建てられるようになりました。また、脱炭素社会に向けた木材利用促進の動きから、木造建築を積極的に展開するための様々な商品や技術の開発、法律の整備、支援制度の導入等が行われています。
例えば技術の面では、

燃えることを想定して部材を太くする
木の柱や梁を燃えにくい石膏ボードなどで覆う
鉄筋コンクリートのような燃えない素材で空間を区切る
木の強さを均一にするために複数の木を貼り合わせた集成材を使う
JAS規格によって木の強さを数値化する
木を金物で繋ぐ

などの工夫があります。

木の特性

私たちの暮らしの中に様々な形で利用されている「木」。
木は人にやさしい素材です。

1. 軽くて丈夫
2. 加工しやすい
3. 肌触りが良い
4. 適度な湿度に保つ
5. 衝撃を吸収する
6. 熱が伝わりにくい
7. 目にやさしい
8. 音をまろやかにする
9. 木の香りでリラックス

また、素材の劣化については木に限らず、時間と共に劣化することを避けることはできません。特に木材は、生物資源由来のため紫外線や雨などの影響を受けやすく、腐朽は避けられません。腐朽は、空気、栄養、水、温度の４つの要素が整うと進行します。木材(栄養)に水や空気が直接触れないように「塗装」することで腐朽を防ぐことができます。ですが、温度や湿度の変化により木材の表面に割れなどが発生すると劣化が始まりますので、定期的な塗装のやり直しなどのメンテナンスが必要です。

このように、今では木を活かすための様々な取組みが進み、暮らしの中に木を取り入れることができる可能性が広がってきました。手入れも楽しみの一つと捉え、不安なことは専門者へ相談するなど、快適性と安全性のバランスを図りながら、木のある暮らしがこの大分県に広がることを願っています。